

配布されているパンフレットもご活用下さい！

秋まき小麦

「きたほなみ」の安定生産に向けて
～道央地域における取組事例から～



道央地域の「きたほなみ」は、他産地と比べると収量がやや低く、年次変動の大きさが課題となっている。そのため、各地区農業改良センターでは、令和元年度の普及推進事業「秋まき小麦「きたほなみ」の気象変動に対応した播種管理」の現地実証を行いながら、地場に適した栽培法の検討を進めてきた。

本パンフレットでは、各地区農業改良センターの取組をもとに、道央地域における「きたほなみ」の安定栽培法について紹介する。

秋まき小麦「きたほなみ」の気象変動に対応した播種管理
(令和元年度 北海道農政課 普及推進事項)

栽培のポイント

- ① 成熟期の目標播種量550～650本/㎡となる播種量管理
(幼穂形成段階まで追肥)
- ② 発光状態を良好に保つ(群落下部まで光を入れる)
- ③ 多肥を回避し、病害が発生しにくい環境づくりに努める



北海道・ホクレン・北集・北海道農産協会
このパンフレットは、生産者協出(北海道農産生産流通安定対策事業)を財源に作成しています

令和3年産「きたほなみ」

収量・品質からみえた技術的な課題と対策



令和3年産の登熟期間は記録的な高温・少雨となったものの、多くの地域で平年作以上の収量が確保されました。その一方、細麦となり、製品歩留が低下する圃場も目立ちました。

本資料では、秋まき小麦の作付面積が多い上位3圏内局(十勝・オホーツク・空知)における令和3年産の気象条件と収量との関係、および問題が生じた要因について説明します。加えて、要因解析から明らかになった技術的な課題と対策を示しましたので、今後の秋まき小麦栽培の参考として下さい。

令和4年1月
北海道・ホクレン・北集・北海道農産協会
このパンフレットは、生産者協出(北海道農産生産流通安定対策事業)を財源に作成されています

令和3年産「きたほなみ」の技術対策や各地で実施された栽培試験結果が記載されておりますので本年の栽培にお役立て下さい！

JAみねのぶ 営農販売課
TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803

※ご不明な点が御座いましたら営農販売課までご連絡下さい。